

南の国の「ナデシコ」税理士

成功へのキセキ



第5回 コドモと交わした3つの約束

「お母さんのコドモに生まれたことが、僕の誇りです」

大学院生のムスコから、こんな手紙をもらったのは、つい最近のこと。

人生において、怖いぐらい幸せという経験は、そんなに出来るものではありません。もしかしたら明日、とてつもなく不吉なことが起きるのでは？という気持ちになるほど、嬉しい、嬉しい、でも意外な出来事でした。

なぜ意外かって？だって私は、専業主婦のような子育てをする、と決めておきながら、実のところ仕事にかまけてばかりで、ぜんぜんパーフェクトな母親ではなかったからです。

ムスコが通ったシュタイナー幼稚園では、私以外、全員が本物の専業主婦。家に帰れば、手づくりのケーキやオヤツが待っているような家庭ばかりです。我が家の場合、手づくりどころか、週のうち4日は、幼稚園にお迎えに来るのは、ママではなくベビーシッターさんです。

月に一度のママと子供の集いでは、予定時間を過ぎてても夕方まで思う存分遊ぶのが当たり前。でもうちのムスコは、母親である私が仕事の予定を目一杯入れているので、他の子供たちを尻目に、先に帰らなければなりません。

「お母さんはどうして働いているの？」

3歳のムスコからの真剣な問いに、私はキチンと答えることが出来ませんでした。

小学生になると、ムスコの周りにも、働くママが増えてきました。それでも私のように、髪振り乱して「爆働する」母親は、まだまだ少数派だったようで、小学校4年生のときは、こんなことを言われました。

「僕はね、大きくなったら、家の中で働く人と結婚するんだ」

自宅で公文教室を開いている友達のママが、いつも家にいるのが、羨ましかったのでしょうか。

母の不在。

子供に引け目を感じない「働くママ」など、まずいなどと言ってもよいでしょう。日中、外で働いていると、どんなことをしても、子供の「ただいま！」に答えてあげることができません。「おかえり」と、たった一言が言えないのです。宿題をみてあげることもできない、オヤツをつくってあげることもできない。

小学校5年生のとき、学校からの帰り道で彼は、発情期？だったらしいカラスに襲われたことがあります。顔中、鼻水だらけにして泣きながら、家に逃げ帰ってきたと、ベビーシッターさんが話してくれました。大人になるまで、その道が歩けなくなるほど怖い体験をしたというのに、「そのとき」、母は家にはいませんでした。

高校を卒業して、北海道の大学に行くことが決まったとき、あー、これで子育ても一段落だと思いました。羨らしいことも何ひとつできませんでしたが、まあまあ自分としては、結構がんばったつもりでいました。

軽い気持ちで、ムスコに「よくここまで、グレずに大きくなったよね～」と言ったときの事。強烈なパンチが浴びせられたのです…。

「僕がグレなかったのは、お母さんががんばったからじゃなくて、僕ががんばったからだよ。精一杯やったとか、出来るだけのことをしたとかいうのは、全部、お母さんの自己満足だからね」

ガーン(￣O￣)

たしかに、その通りです。どんなにがんばっても、子供にとっては、いつもそばにいてくれる母親が一番なのです…。料理が下手でもいい。きれいなママでなくてもいい。一緒に買い物に行き、「うまい棒」をショッピングバッグに放り込んで怒られる。当たり前のそんな日常が子供にとっては宝物なのです。

その代わりといっちは何ですが、私は「心の中で」自分に3つのタスクを課しました。タイトルにもある、3つの約束です。

- ① 朝はニコニコ笑って送り出す。
- ② ママの集まりには、必ず出席をする。
- ③ 何時でも、コドモの電話にはすぐに出る。

①番は、簡単なようで、毎日これ続けるのは、意外と大変です。コドモというのは、親の思い通りにいかないもの。こちらは良かれと思っているのに、反抗したり、口ごたえしたり。ホントに腹がたちます。けれどどんな時も、朝はニコニコしながら起こす。楽しく朝ごはんを食べる。出かけるときは、「行ってらっしゃい」と声をかけ、ムスコの姿が見えな

◆筆者 原 尚美 (はら なおみ) プロフィール

税理士。東京外国語大学卒業。TACの全日本答練(現:全国公開模試)「財務諸表論」「法人税法」を全国1位の成績で、税理士試験に合格。直後に出産。育児と両立させるため、1日3時間だけの会計事務所からスタートし、現在は全員女性だけのスタッフ30名、一部上場企業の子会社やグローバル企業の日本子会社などをクライアントにもつ。ミャンマーに会計サービスの会社を設立し、海外進出支援にも力を入れている。著書に「小さな会社のための総務・経理の仕事がわかる本」「小さな起業のファイナンス」(いずれもソーテック社)、「51の質問に答えるだけですぐできる「事業計画書」のつくり方(日本実業出版社)」「トコトコわかる株式会社のつくり方(新星出版社)」「世界一ラクにできる確定申告(技術評論社)」「一生食っていくための土業の営業術(中経出版)」など。その他、「経理ウーマン」「デイの経営と運営」など雑誌への寄稿や、商工会議所、中小企業投資育成株式会社、日本政策金融公庫などでの、セミナー実績も多数。

くなるまで、外で見送る。これは高校生になって、「恥ずかしいから、もうやめて」と言われるまで(笑)、続けました。

②番も、幼稚園～小学校～中学校～高校とやり続けるのは、やはり大変でした。学校の主な年間行事は、前もって決まっていますが、PTAの集まりや、ママ同士の内輪の集まりは、直前に決まることの方が多かったです。しかし仕事の打ち合わせには、どうしても日程をずらせないものがあります。私一人の都合ではなく、クライアントの都合もあるし、他の土業や、コンサルタントも同席となると、日程変更は容易なことではありません。

でも、私はコドモが一番、仕事は二番という順序を変えたことはありません。迷ったことすら、ありませんでした。仕事の埋め合わせは、必ずできる。いや、必ずすると強く心に決めていました。それが原因で仕事を失うのは、単に私の能力が足りないからだと思っていたからです。

③番は、土業だったからこそ出来たのかもしれない。私は24時間いつでも、携帯着信音のボリュームをMAXにしていました。そしてムスコからの着メロだけ、音楽を変えていたのです。食事中も、打ち合わせ中も、税務調査の立会中も、ムスコからの電話には即座に対応するためです。

私は人より、オンとオフの切り替えが上手い方だと思います。家にいるときは、仕事の悩みは完全に忘れられるタイプ。家にいてもたまに、クライアントから電話がかかってくる場合があります。そんな時はコドモと遊んでいようが、隣の部屋に移って、ドアをピシッと閉めてしまう。夜や休日にかかってくる電話は、クライアントにとっても緊急だからです。ムスコは物心ついたときから、仕事で、母親の邪魔をしてはいけない、という覚悟ができていたみたい。私のあとを追って泣いた、という記憶がありません。

そんなムスコが、日中、私の携帯に電話をかけてくるのは、彼にとって一大事が発生したときだけです。「その時」、がんばったねとか、残念だったねとか、悔しかったねとか、一言だけでいいんです。それだけで、コドモは救われる。たった30秒でいいんです。それが出来るのは世界中にただ一人、母親しかいません。

そのためだけに、私は彼との直通ラインをいつもオンにしていたかったのです。

この3つのタスクは、コドモが高校を卒業するまで、一度も破ったことはありません。自分ではやり逃げた感はありませんが、コドモからしたら、そう、ただの自己満足です。母親としては落第の私。それなのに、ムスコは勝手に立派になって、母親を泣かせる手紙を書けるまでに成長しました。

うれしい。がんばったご褒美に、神様がプレゼントをくださったのでしょうか。人生はなかなか捨てたものじゃありません。いま子育て中のママたちは、いつか必ずいいことが待っているので、夢をあきらめないでほしいと思います。

それにしても、こんな働き方ができたのは、ひとえに私が税理士だからです。大企業に勤めていたら、②番や③番は、とうてい無理な話でしょう。

いまや、ママも働くのが当たり前。それでもやはり、子育ては母親の肩にかかっています。

子供の成績が悪いのも、友達とうまく付き合えないのも、子供に何か問題があったら、みんなママの責任です。周りもそう思うし、何よりママ自身が、自分を責めてしまうのが、日本の現実ではないでしょうか。

自宅で、一人でも働ける土業の資格は、そんな働くママのためにこそ、あるのかもしれない。

改定版 発売中

世界一ラクにできる確定申告

～全自動会計ソフト「freee」で手間なく完結！～平成27年版

原 尚美 著(技術評論社) 1,580円+税

仕訳不要。勘定科目は覚えなくてもOK。領収書は整理しなくてもOK。経費にできるか悩まなくてもOK。世界一ズボラな税理士と、新しもの好きなWebコンサルが書いた、とにかくメンドくさい事は、全部しなくてもすむ究極の確定申告本です。